

ぴーまんタイムスに感謝

先日、自宅に「ぴーまんタイムス」が届きました。「ぴーまんタイムス」は、大学時代に友人が発行していた機関紙です。学生時代には、この「ぴーまんタイムス」が学生たちの思いを載せ、学生一人ひとりの絆を紡いできた大変意義深いものでもありました。

今回届いた「ぴーまんタイムス」はずっしり重く、数十年前の学生一人ひとりの近況や現在の思い、学生時代の原稿が掲載されていました。ページをめくるたびに懐かしさとともに膨大な時間と労力をかけて作成してくれた友人への感謝の気持ちが沸き上がってきます。巻頭に、その友人の思いが綴られていました。

大学卒業後、地元の熊本県に戻っていた友人は、2016年4月14日、16日に熊本地震に遭遇します。この地震は、震度7の揺れが28時間以内に2度発生するという、観測史上、例を見ない大規模災害でした。275名の尊い命が失われ、負傷者2,739人、20万棟近くの家屋被害が生じています。友人は、家族とともに避難し、ようやく自宅に帰ったところ、学生時代の友人たちからの励ましの思いを、代表者が届けます。その感謝の思いから、今年開催される同窓会を機に、今回の「ぴーまんタイムス」を作成し、学生時代同じ時を過ごした友人たちに届けたそうです。友人に、「ぴーまんタイムス」に、感謝です。

反面、熊本地震が起こったとき、「おいふざけんな、地震のせいでうちの近くの動物園からライオン放たれたんだが熊本」という文章と路上に立っているライオンの画像が投稿されました。後日、デマを投稿したとして、偽計業務妨害の疑いで、神奈川県のが会社員が逮捕されます。その動機は、「みんなを驚かせようと悪ふざけでやった」とのことでした。「驚かせよう」「悪ふざけ」といった自分本位の行為が、被災している方々の思いや被災した方々をなんとか支援したいと願う人々の思いを踏みにじることに繋がっていると感じます。

震災から学ぶことは「自助、共助の精神を日頃からもっていることが、いざという時に役立つこと。自分の人権と共に他の人の人権を大切にしながら皆で助け合っていこうという自助、共助の精神こそが人権尊重社会のもとになっている。」ということだと思います。

三豊市の本庁舎（高瀬町下勝間）の玄関脇にモニュメント（右下）が立っています。ここに刻まれている文字は「恕」という言葉です。

「論語」の中で孔子は、弟子の子貢の問いに答えて言います。
「先生からお教えいただく一語を心にとめて生きていけば、生涯、人としての道を過（あやま）たずに生きていけるという言葉がありませんか」

孔子が答えました。「それは恕だ。」

「恕」とは、「相手の身になって思い・語り・行動することができるようになること」です。

三豊市に人権文化を根付かせるために自分には何ができるかを日頃から考え、恕の心を持って実践していこうではありませんか。

